

□大学院共通科目

科目名	研究方法概論Ⅳ	1 単位
担当者	末盛 慶	
開講形態	オンデマンド形式 ※【nfu.jp】で配信される講義コンテンツを視聴しながら学ぶ	
テーマ	質的研究における多様な手法と質的論文の書き方について理解を深める。	
科目のねらい	<p><キーワード> 質的研究、事例分析、アクションリサーチ、混合研究法、質的論文の書き方 <内容の要約> 研究方法概論Ⅱでは質的研究法の基礎を取り上げたが、本科目では質的研究における多様な手法について学んでいく。具体的には、事例研究、アクションリサーチ、混合研究法などを取り上げる。加えて多様な質的調査法および分析法についても説明する。最後に質的論文の書き方や注意点にふれる。 <学習目標> 質的研究における多様な調査法を理解できる。 質的研究における多様な分析法を理解できる。 質的論文のまとめ方と注意点について理解できる。</p>	
授業の進め方	第1回 多様な質的調査法と分析法Ⅰ 第2回 多様な質的調査法と分析法Ⅱ 第3回 多様な質的調査法と分析法Ⅲ 第4回 事例研究 第5回 アクションリサーチ 第6回 混合研究法Ⅰ（基礎編） 第7回 混合研究法Ⅱ（応用編） 第8回 質的論文の書き方と注意点	
事前学習の内容 学習上の注意	本科目はオンデマンド授業のため、開講している期日までに必ず該当する回を履修すること。一部分でも期限内に受講しないと、単位認定の対象外となる。	
本科目の 関連科目	私の研究テーマと研究方法（大学院共通科目）、研究方法概論Ⅱ（大学院共通科目）	
テキスト	毎回オリジナルのレジュメを用いる。	
参考文献	<p>【質的研究の概説書】 ジョン・クレスウェル、ジョアンナ・クレスウェル、2022、『質的研究をはじめのための30の基礎スキル』新曜社 プランニー・リアンプトン、2023、『質的研究法』メディカルサイエンスインターナショナル</p> <p>【事例研究】 ロバート K.イン、2011、『新装版 ケース・スタディの方法(第2版)』千倉書房 アレキサンダー・ジョージ・アンドリュウ・ベネット、2013、『社会科学のケース・スタディ』勁草書房</p> <p>【アクションリサーチ】 グリーンウッド、DJ, レヴィン、M, 2023、『アクションリサーチ入門』新曜社 デビッド・コフラン、テレサ・ブラニック、2021、『実践アクションリサーチ』碩学舎</p> <p>【混合研究法】 クレスウェル・ジョン、2017、『早わかり混合研究法』ナカニシヤ出版 チャールズ・テッドリー、アッバス・タシャコリ、2017、『混合研究法の基礎』西村書店</p> <p>【多様な質的データ分析法】 戈木クレイグヒル滋子、2016、『グラウンデッド・セオリー・アプローチ（改訂版）』新曜社 佐藤郁哉、2008、『質的データ分析法—原理・方法・実践』新曜社 安田裕子・滑田明暢・福田茉莉・サトウタツヤ、2016、『TEA 理論編』新曜社 大谷尚、2019、『質的研究の考え方：研究方法論から SCAT による分析まで』名古屋大学出版会 ブラウン・V, クラーク、V, 2025、『テーマ分析：実践ガイド』新曜社 ティム・ラプリー、2018、『会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析』新曜社 ブノワ・リウー、チャールズ C. レイガン、2016、『質的比較分析(QCA)と関連手法入門』晃洋書房</p> <p>【質的論文のまとめ方と注意点】 ハイディ・レヴィット、2023、『心理学における質的研究の論文作法』新曜社 太田 裕子、2019、『はじめて「質的研究」を「書く」あなたへ』東京図書</p>	
成績評価 方法と基準	期末レポート（50点）、授業内容に関する受講生のコメント・毎回提出（50点）により評価し、総合評価60点以上を合格とする。	